

平成 22 年度東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程入学試験
一般教育科目「化学」における出題ミスについて

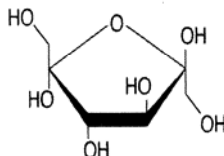
東 京 大 学

このたび、平成 22 年度の農学生命科学研究科修士課程入学試験の一般教育科目「化学」の問題の一部に出題ミスがあることが判明いたしました。出題ミスが確認された経緯、出題の誤り及び本学の対応は次のとおりです。

1. 出題ミスの内容

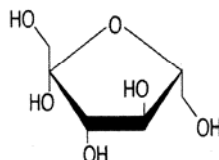
平成 21 年 8 月 19 日（水）に実施した農学生命科学研究科の修士課程入学試験における筆記試験（第一日目）の一般教育科目「化学」で出題した第 1 問(2) の下記の部分

フルクトースの構造



が、正しくは

フルクトースの構造



であるべきであった。

（問題の関係する部分を、別紙に示す。）

2. 出題ミスの発見の経緯

問題が生じた一般教育科目の試験は 6 科目（生物学、化学、物理学、数学、地学、経済・社会学）の中から専攻によって 1 科目又は 2 科目を課して（一般教育科目を課していない専攻もある。）解答させる形式であり、試験時間は 1 科目選択の場合が 13：00～14：20 の 1 時間 20 分で、2 科目の場合が 13：00～15：40 の 2 時間 40 分である。今回一般教育科目を受験した者 338 名のうち、203 名が当該科目「化学」を受験した。一般教育科目の試験の終了後、当該科目「化学」の採点中に出題・採点委員（当該問題の出題者）が発見した。

なお、一般教育科目を課している専攻の募集人員は総計 256 名で、出願者は総計 372 名であった。

3．採点方法及び受験者への周知について

対応策として、第1問を解答した者については、第1問(2)の後半部「また、下記の果糖(フルクトース)の構造にならって、ショ糖(スクロース)およびブドウ糖(グルコース)の化学構造を記せ。」の解答は全て正解として取り扱った。

なお、9月10日(木)に合格発表を行っているが、この対処が受験者の合否に影響を及ぼすことはなく、不利益を被る受験者はいないことを確認している。

今回の出題ミスについては、10月14日(水)に、一般教育科目の試験を受験した受験者全員に、出題ミスの内容及び採点方法についての通知文を速達で郵送した。

4．出題ミスの起こった原因とチェック体制について

農学生命科学研究科においては、出題科目に対して出題・採点委員による確認、査読時における査読委員と入試委員長、副委員長によるチェック確認を行っていたが、出題ミスの発見には至らなかった。

5．今後の対応

今後、入学試験問題の出題に当たっては、このようなことの無いよう、各担当委員に厳しく周知徹底し、再発防止に努めたい。

別 紙

- (2) 本反応の化学式を記せ。また、下記の果糖（フルクトース）の構造にならって、ショ糖（スクロース）およびブドウ糖（グルコース）の化学構造を記せ。

フルクトースの構造

